

第3回 阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会 ニュース

当日の内容を皆様と共有させていただくため、ニュースを毎回発行していきます。

2019年1月15日 発行

2018年12月13日に「第3回阪急茨木市駅周辺まちづくり学集会」をローズWAMにて開催しました。

商店会で営業されている方や阪急茨木市駅周辺まちづくりに関心のある方など、総勢15名の方に参加いただき、【思い描くまちの姿を実現するために阪急茨木市駅周辺をどうしていくのか】をテーマにワークショップを行いました。

また、前回に引き続き、アドバイザーとして近畿大学総合社会学部の久教授にもご参加いただきました。

参加者の皆さんによる活発な意見交換が行われ、楽しく有意義な学集会となりました。

○ 市内で行われている社会実験等の事例紹介

① 場を開く社会実験（茨木市）

開催期間：2016年度 11月～3月、2017年度 5月～11月

開催場所：いばらきスカイパレット、岩倉公園、阪急茨木市駅西口2階デッキ
(道路や公園での取組)

概要：市街地新生課が、公共空間を活用した取組を実施したいプレーヤーを募集し、管理部署との調整や手続き、周知などもサポートすることで、公共空間の活用に対するハードルを下げ、企画の実施に繋げ、潜在的なプレーヤーを発掘すると共に公共空間の活用のあり方を考える

取組。「てづくり市」や「音楽コンサート」「オープンカフェ」など様々な社会実験を実施。いばらきスカイパレットは、道路法上の道路であり、道路占用には公共性や無余地性の整理が必要。



てづくり市の様子(いばらきスカイパレット)

② 広場活用社会実験「IBALAB（イバラボ）」（茨木市）

開催期間：2018年8月～12月

開催場所：元市民会館前広場（公園での取組）

概要：「IBALAB（イバラボ）」は市民会館跡地エリア活用基本構想で示したキーコンセプト「育てる広場」の実現への取組のひとつで、芝生広場づくりから、企画・実施まで市民の方と共に行なう社会実験。

「芝張りワークショップ」や「寄せ植え」、「マルシェ」や「芝生に手作りのこたつを設置」など、様々な取組を実施。この社会実験の結果を参考に今後のエリア整備・活用内容に繋げていく。



こたつに入り読書

③ IBARAKI JAZZ&CLASSIC FESTIVAL (ソシオ茨木・加藤様)

開催日：2018年9月15日(土)

開催場所：ソシオ茨木2階ピロティ、ロサヴィア1階、茨木別院(民間施設での取組)

概要：再開発に向けたエリアマネジメント部会の取組みとして、ジャズとクラシックを中心とした音楽イベントを開催。阪急茨木市駅7商店街連合会をはじめ多くの団体や個人の方に後援・協賛いただき実施。当日は、3,000人以上の方が来場。アンケートでは多くの方に「まちの活性化」や「魅力づくり」に役立つとご意見を頂いた。一方、「会場が狭い」や「ゆっくり座れるスペースが欲しい」とのご意見も頂いた。例年の継続事業にしていきたい。



当日の様子(ソシオ茨木2階ピロティ)

○ 久教授からの講演：エリアマネジメントについて

- ・イベントを実施すれば、たくさんの方がやってくる。これを365日続けていこうとしたときに、どういう魅力が必要か考える上で、イベントは良いきっかけになると思う。
- ・エリアマネジメントは、ハード整備ではなく、イベントをうまく広報することで、ソフトなやり方でまちのイメージアップやブランド力をつけていくこと。そのイベントを誰がどうやっていくかを考えて、みんなで動いていくこと。いつも誰かが何かをやっていくことが楽しさや賑わいを生み出す。
- ・今までは作るということをメインにやってきたが、一方で使うということをきちんとやらないとせっかく作ったものが生きてこない。豊田市の“あそべるとよたプロジェクト”は、空間をつかっても良いというメッセージを出すことで、人が集まり、使われている事例。

○ ワークショップ

【思い描くまちの姿を実現するためにどうしていくのか】をテーマに、「どのような暮らしをしたいのか」「実現するために必要なコト・モノは何か」などについて3グループに分かれ、活発に意見交換をしました。

最後は各グループの代表者に発表いただき、参加者の意見を全員で共有しました。



日常

- ・陽のあたるスポットで休憩したい
- ・日常生活に音楽がある暮らしをしたい。音楽があふれる街
- ・外で音楽を聴いたり、人と会話したりなど、何かをしながら飲食する
- ・コーヒーを飲みながら読書をしたい
- ・ゆっくりコーヒーを飲む休憩場が欲しい
- ・女性などが、ゆっくりランチできる場所が欲しい
- ・駅周辺で買い物がしたい
- ・誰かに薦めたくなるようなお店（飲食・物販等）が増えて欲しい

交流

- ・様々な年代が街中に集まって欲しい
- ・多世代交流のある暮らしがしたい
- ・知らないオッチャンとの関わりが茨木の良さのひとつ
- ・近隣住民と助け合えるまち
- ・色々な人（広場で出会った人、買物客など）と自然と会話が生まれる

賑わい

- ・昔の活気を取り戻したい。チェーン店ではなく、地元店舗が賑わっている
- ・食べ歩きが出来るまち（学生など）
- ・子供がワクワクできる街、楽しめる街になって欲しい
- ・街中で子供・家族と遊べる
- ・若いファミリーがまちを歩く。親子や家族で集まれる飲食店が欲しい
- ・着物を着てまち歩きやイベントをしたい
- ・駅前から茨木の良さを発信したい

活用

- ・ソシオ2階通路を活かしたイベントをしたい
- ・周辺の古い街並みを残したい
- ・歴史とにぎわいにこだわったまちにして欲しい

回遊

- ・歩きやすいまち
- ・街中には商店街や中央公園、元茨木川緑地など魅力的な場所がある。人が集まる駅前を拠点にそこからの回遊性を向上させたい

広場

- ・広場で自由な活動がしたい
- ・広場でバーベキューがしたい。商店街（肉屋や八百屋）で食材が揃う
- ・芝生広場で寝ころびたい
- ・街中の広場や公園でゆっくり過ごせる

日常・交流

- ・ソシオ（駅前）でサークルなどの活動を発表する場所
- ・趣味の教室など人と人とのつながりができる場
- ・多世代交流できる場所（囲碁、将棋、チェス等ができる）
- ・これまでのハコモノ整備から人の活動が生まれるスペースの整備に転換
- ・芝生を張る（“てんしば”のイメージ）⇒寝転がってゆっくりできる
- ・ボール遊びができる場所
- ・にぎわい亭の活用。トイレや駐輪場があり、商店街利用者の活動の場となる

賑わい

- ・各エリアの個性を活かし、商店街や茨木神社をブランド化する
- ・茨木神社の結婚式をPR。商店街にレッドカーペットを敷いてファッションショーを開催。川端康成ゆかりの店をPR
- ・タバコを吸える場所（ルールを守って周りに迷惑をかけない。喫煙ルームは閉鎖的）
- ・茨木の野菜を食べられるお店が増えて欲しい
- ・茨木は商店街のまち（高槻は百貨店）。これを継承していく
- ・イベントと地元店舗のコラボレーション。イベントを通じて地元店舗をPRする
- ・「ガンバ勝った DAY（ガンバ大阪が勝った試合の翌日に商店街の店舗でサービスが受けられる）」を今後も継続する。最近、品物が定型化してきたので、各店舗で工夫が必要

活用・回遊

- ・古民家など古い街並みも残っているので、インスタ映えする場所や仕掛けを作る
- ・市の中心部には茨木神社や商店街などまち歩きすると楽しい場所は既にあるので、駅からそれらの場所に導くような回遊性の構築が必要
- ・中央公園に大学や企業のバス停を移して歩いてもらう。駅前にゆとりのあるスペースを確保する
- ・阪急⇄JR間のループバスの運行。高齢者や子供連れの方が気軽に乗れて、わかりやすい
- ・バス通りを一方通行化してはどうか
- ・まちなかに市民が気軽に行けるように駐輪場を整備

広場

- ・阪急茨木市駅の駅前が開放的な空間となり、駅を降りた人が一目で商店街の場所がわかるようにする
- ・屋上広場（新しい駅前広場のバス停の上）
- ・人が集まる広場。災害拠点となる広場（一時避難や電気供給など）
- ・イベントや休憩など多目的に活用できる広場

※すべてのご意見はご紹介できませんが、上記以外にも様々な意見が出ました。

○ まとめ（久教授より）

今回も色々な提案・意見が出てきたと思う。芝生広場の話が出ましたが、なんばの高島屋前のタクシー待機場は3日間限定で芝生広場が整備された。そうするとヨガをする人など楽しいことが起こった。これをきっかけに現在は本格的に広場を整備する計画が進んでいる。

何か面白いことをやりたいという人は大勢いるので、自分がやらなくてもそういう人を探してくれば、面白い展開が広がる。

一方で、何かをしたい人にとっては場所や賃料など色々なハードルがある。そのハードルを下げていけば、面白いことをやってくれる人が街中にどんどん現れるはず。そのあたりの仕掛けづくりについても意見交換していきたい。



次回の学集会は2019年2月13日(水)19:00～ @ローズ WAM5階

次回は今年度のまちづくり学集会の中間とりまとめを行う予定です。

学集会に参加される方は事前にご連絡ください。

連絡先:茨木市 市街地新生課 担当:三浦、参河(みかわ)

TEL :072-620-1821 FAX :072-620-1730 mail:shigaichi@city.ibaraki.lg.jp